



国際センター通信 (No.4)

アジア土木学協会連合協議会(ACECC)次期事務局長に堀越氏が当選、 ACECC 常設事務局を設置へ

◆ ACECC 担当委員会委員長 堀越研一氏、ACECC 次期事務局長に選任。
2012年9月21-22日 マニラで開催されたアジア土木学協会連合協議会
(ACECC: Asian Civil Engineering Coordinating Council) の第23回理事会
(Executive Committee Meeting)において、ACECC 担当委員会委員長 堀越研一氏
(大成建設) が、次期事務局長に選任された。



ACECC 担当委員会
委員長 堀越 研一
ACECC 次期事務局長

事務局長の任期は、2013年に開催予定である第5回アジア土木技術国際
会議(6th CECAR: Civil Engineering Conference in the Asian Region) 後、
6年間である。その任期開始と同時に、ACECC 常設事務局が JSCE 本部に設置
される。

堀越氏は、事務局長の業務に携わると同時に、これまでと同様に ACECC の主要
メンバーとして活動を続ける。氏の指揮下、ACECC の活動がより活発化・効率化し、
更には、アジアのインフラ整備への貢献度が期待される。ACECC への関心も高
まるであろう。

JSCE は、その氏の活躍を期待し、すこしでも氏の描く ACECC の未来、そして ACECC のミッションが達
成できるよう支援をしてゆくつもりである。

< ACECC: Asian Civil Engineering Coordinating Council >

JSCE、ASCE(米国土木学会)、PICE (フィリピン土木学会) が集まり、ACECC のきっかけとなるアジア地
域の学協会の連合組合を設立しようと準備を始め、それに賛同した CICHE(中国土木水利工程学会)と KSCE
(大韓土木学会) が加わり、1999年9月27日に ACECC を設立した。現在、メンバーは10団体・上記の5
学会に加えて、EA(オーストラリア・エンジニア協会)、HAKI(インドネシア土木構造学会)、ICE India (イ
ンド土木学会)、MACE (モンゴル土木協会)、VFCEA(ベトナム建設技術連盟)となっている。

ACECC の目標 (抜粋)

1. アジア地域における持続的発展のために、土木および関連分野での専門知識と活動の促進と向上を目指す
2. 土木のあらゆる分野における知識と技術の向上・発展を担う技術者間での情報交換を促進する
3. インフラ整備とマネジメント、貴重な環境の保全、防災などの活動を発展、拡大、強化させる

【活動紹介 1.】国際建設マネジメント論2012 第1回開催

2012年8月23日に国際建設マネジメント論2012の5回シリーズ第1回を開催した。参加者数は58名であった。今回の講演会は、一昨年に開催されたものに続くもので、日本の建設産業の国際建設市場への事業展開の必要性が高まっていること、これからの土木技術者は海外建設プロジェクトの遂行に必要なマネジメント能力を身につける必要があること、また従来の企業論的な内容から産業論的なものにする必要があるとの課題を踏まえ、草柳俊二・高知工大特任教授を中心に、今回の講演会を企画、実施した。



草柳教授の講演

前回同様、第一部を草柳俊二教授による講演、第二部を建設関連のトピック的な内容として毎回講演あるいはパネルディスカッションを実施する。また各回とも参加者にアンケートをとり、参加いただいた方からの生の意見や要望はできるだけ次回講演会に反映させ、今後の講演会企画に活かしたい。

(土木学会国際センター 柳川博之)

【活動紹介 2.】The 14th International Summer Symposium

2012年9月5日、6日の両日に、名古屋大学東山キャンパスにおいて、第14回インターナショナルサマーシンポジウムが開催された。サマーシンポジウムは、土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画された。1999年に第1回を開催して以来、単独行事として開催されてきたが、14回目となる今回は、初めて全国大会年次学術講演会国際セッションとして開催した。なお本シンポジウムは、公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。



開会式の様子

1日目は、オープニングセレモニーが長井宏平・留学生グループリーダー（東京大学）の進行により行われ、上田多門・国際センター長（北海道大学）から挨拶に続き、日本の土木の歴史、建設プロジェクト、防災に関する講演が行われた。

講師、講演タイトルは次のとおりである。

- 1) "Disaster Management"
Prof. MEGURO Kimiro, The University of Tokyo
- 2) "History of Japanese Civil Engineering -Trend of Research & Study on Civil Engineering History and Heritage"
Prof. ISOHATA Hiroshi, Nihon University, Vice-Chair of Committee on Historical Studies in Civil Engineering, JSCE
- 3) "State-of-the-art Construction Technologies in Japan"
Mr. NOBUTO Jun, Shimizu Corp. / Construction Technology Research Committee, JSCE

1日目の午後ならびに2日目の午前は、国際セッションとして投稿された90編の論文が合計15のセッションで発表され、またICHARMの留学生にも発表いただき、合計で94篇の発表が行われた。国際セッション会場はどのセッションも多数の聴講者がおり、活発な議論がなされ参加者の間で有意義な情報交換ができたと考えている。2日目の午後は、国際関連行事と合同で名古屋市上下水道局の大曾根雨水貯留施設を見学した。

1 日目の夜には、海外協定学協会や政府関係者も参加するウェルカムレセプションに一部の学生も合流し、一堂に会した懇親会が催され、参加者同士の活発な交流により、国際交流と相互理解はいっそう深められたと思われる。

今回、全国大会年次学術講演会国際セッションとしての開催は初めてであったが、おおむね好評であったと思われる。今回の反省点を改善し、来年はさらに活発なイベントとなるようにしたい。

(土木学会国際センター 柳川博之)

【活動紹介 3.】 Study Tour Grant 2012

土木学会は学術交流基金を活用し、スタディーツアーグラント (Study Tour Grant, STG) として毎年海外協定学会の推薦を受けた土木技術者を日本に招聘している。今年度は土木工学を学ぶ大学生4名を招聘した。来日したのは Mr. KIM Eui Sung(韓国), Mr. Agung Rizky Fajri(インドネシア), Ms. Siriporn Thongjaeng(タイ), Ms. Huong Trinh Thuy(ベトナム)の4名である。日本滞在は、9月3日から12日までの10日間で、ツアーのスタート土木学会全国大会の国際関連行事の一連のイベントに参加し、全国大会中に国際セッションとして実施したサマーシンポジウムの発表者ともレセプションで多くの留学生、ラウンド・テーブル関係者、海外分会関係者と交流を持った。全国大会後は、人と防災未来センターや明石海峡大橋、土木研究所を訪問するなど、防災に関する施設、機関などの訪問を通じて我が国の社会基盤整備情報の収集を行った。



明石海峡大橋で集合写真

滞在期間中は、都内の高層ビルや東京スカイツリーなどを目の当たりにし、我が国の土木事業のスケールの大きさや土木技術の高さを直に見て、また全国大会会場である名古屋大学の土木国際教育の整備された環境を知り、強い印象を与えたようである。

今回はスケジュールに週末をはさんだことでスケジュール余裕をもたせたが、若者としての興味や視点で、土木工学の学生であることから、土木構造物などを中心に都内の有名スポットを訪問するなど、日本滞在を十分満喫できたようだ。将来、彼らが土木技術者としての活動の範囲を広げる契機になることを期待すると同時に、今後、各国の協定学協会や海外分会と土木学会とのさらなる連携の強化に繋がることを期待する。

(土木学会国際センター 柳川博之)

イベント情報

- ・ 10/25 : 国際建設マネジメント論③ (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/management2012>)
- ・ 10/26, 27 : 第56回ヨーロッパ土木技術者評議会 総会@クロアチア in Croatia (<http://www.dubrovniksun.hr/prijave/ecce/>)
- ・ 10/29, 30 : ICE-JSCE 共同国際シンポジウム:「大災害への回復力と適応性に優れた社会:市民の反応を考慮した社会資本整備」 <http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtm>
- ・ 11/22 : 国際建設マネジメント論④ (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/management2012>)

お知らせ

- ◆ ACECC 6th CECAR @インドネシア・ジャカルタ (2013年8月20-22日) 開催されます。
<http://committees.jsce.or.jp/acecc/6thcecar>
- ◆ コンクリート委員会 ニュースレター No. 30 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/newsletter30/index.html>

- ◆ ご参考：土木学会誌 ミニ特集：“日本の建設産業は主要輸出産業になれるか？”（土木学会誌 Vol. 93, No. 9, 2008：<http://www.jsce.or.jp/journal/thismonth/200809.shtml>）

会長のつぶやき

ベトナム構造・建設協会（VASECT）と JSCE は 2012 年 8 月 28 日と 29 日にハノイにおいて第 1 回国際シンポジウムを開きました。Nguyen Thanh Nghi ベトナム建設省副大臣を含む約 170 名が日本・ベトナムから参加しました。

我々のセッション内容は次のようなものです。

1. 日本の高速道路における建設技術
2. ベトナムにおける PPP プロジェクト
3. 日本の高速鉄道建設のノウハウ
4. 東日本大震災による交通システムの被害と復旧
5. ベトナムにおける日本のグラウンドアンカー技術の適用
6. 日本の軟弱地盤改良技術

7. ベトナム橋梁の劣化

－劣化分析と主な原因

－ポストテンションプレストレスコンクリート橋の厳しい環境下での劣化

シンポジウムにおいて、我々は現実的に多方面から問題点と解決法を議論しました。私はこの議論が VASECT と JSCE にとって有益であったと思います。セッション後、VASECT と JSCE は、都市の地下構造物建設をテーマとする将来のシンポジウムについて打ち合わせをしました。私はこのシンポジウムが日本土木技術者のベトナム社会資本整備参画のきっかけとなることを期待しています。

土木学会長 小野武彦



VASECT 及び JSCE 関係者集合写真

編集後記

9 月上旬の名古屋大学での全国大会国際関連行事をピークに、8 月から 9 月にわたる一連の国際交流活動が一段落したところです。その中で、マニラの ACECC 理事会で堀越氏が ACECC の次期事務局長に選任されたことは、ACECC 対応活動を担当してきた者として、たいへんうれしく思うと同時に正直ホッとしています。来年 8 月から ACECC 事務局を担当することが決まったわけですが、ACECC の運営に責任を持つことにもなります。真価が問われることにもなり、これからが大事です。引き続き 10 月から 12 月にかけて海外の協定学会年次大会のシーズンが始まります。土木学会からも代表団を派遣しますが、国際交流グループの国別リーダーを中心に代表団メンバー構成やラウンドテーブルミーティング話題提供者などの調整を進めています。これら交流活動が、情報、教育、留学生の各グループと連動し、調査研究部門など他部門の委員会とも連携し、国際活動を展開していくことが重要です。引き続きご協力をお願いします。（HY）

【ご意見・ご質問】

より面白い通信にするため、皆様のご意見やコメントを聞かせてください。お待ちしております。JSCE IAC:
iac-news@jsce.or.jp